

学校教育目標	文武一体『力ある人間』の育成 ～文武一体の中で人としての力を育てる～	経営理念	本校の永き歴史と良き校風を受け継ぎ発展させるとともに、社会の変化に対応し柔軟な発想を持って教育活動にあたる。特に、「進取創造」「凡事徹底」「一心練達」に取り組み、社会に役立つ「力のある人間」を育成する。
--------	------------------------------------	------	---

評価計画							自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方針
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標 値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	2月						
教育課程・学習指導	1	基礎・基本の定着を図り、確かな学力を身に付ける。	「基礎・基本」の学習内容の定着を図る。	○教科の基礎学習と関連付けた生活学習ノート「切磋琢磨」の徹底 ・習熟度別テスト(NRT) ・実力テスト	全国平均以上	NRT ①49.9 ②52.5 実テ③ +2.5	—	NRT 102% 実テ③ +1.6 実テ 101%	3	・2・3学年は全国平均以上、1学年はほぼ全国平均であった。 ・学習意欲が低く、学習習慣が身につけていない生徒が、年々増えており、改善のための手立てを工夫しなければならない。	B	・3年生の学力向上は先生の努力の賜物だと思う。 ・学習習慣は、学校側が出す宿題などでは限界を感じる。	・小学校と連携し、系統的な学習指導体制を構築する。 ・各教科において、身に付けられるべく学力・能力を分析し、授業改善につなげていく。	
			○「八中検定」の実施	・「八中検定」の合格者の割合	90%以上	88%	83%	92%	2	・基礎基本の定着を図る「八中検定」での合格者が後期に低下した。 ・漢字、単語、計算の基本的事項の定着を図るために、継続した学習姿勢を整える必要がある。	B	・「八中検定」の継続は良いこと。 ・再テストにより部活動に遅れてしまうから頑張るような生徒が減ってきているのか。	・基礎知識が不十分な生徒が増えており、確実な定着を目指し、家庭学習の課題内容や学校でのドリル学習などの工夫を図る。	
			学習規律を高め、教師自身の授業力向上を図る。	○「八中スタイル」の授業実践の徹底 ・生徒意識調査「適切な大きさの声で最後まではっきりと話す」 ・生徒意識調査「授業がよくわかる」	肯定的評価 85%以上 肯定的評価 85%以上	82% 91%	81% 91%	95% 107%	3	・生徒は真面目な姿勢で授業にのぞみ、教員の分かる授業づくりにより、生徒の理解力の向上に繋がった。 ・生徒が自らの考えや意見を表現する機会を取り入れた授業づくりをすすめる必要がある。	B	・授業を見て、大変落ち着いている。 ・今の指導の中でも授業で生徒に「まかせる」所はあるのではないかな。	・規律ある授業において、生徒が主体的で協働的な学びが行われ、学力の向上につながる授業づくりをすすめる。	
生徒指導	2	人間としての基本を身に付けさせる。	基本的な生活習慣の徹底を図る。	○「八中生徒 8つのスローガン」の奨励と評価 ○生活目標に対するアンケートの実施	・「八中生徒 8つのスローガン」のすべてがほぼ実行できた生徒の割合	85%以上	83%	91%	107%	4	・あいさつ、言葉遣いなどの基本的な生活習慣である「八中生徒8つのスローガン」に基づいた行動が、日々の生活の中でとれるよう、生徒会執行部が率先し、工夫した取組を進めた。	A	・生徒会の取組であるが、生徒会執行部がしっかりしていると思う。 ・あいさつは具体的に示すことが必要。	・生徒による主体的な意識行動につながるよう、生徒会による取組を支援する。
			不登校及び不登校傾向の生徒への取組の充実を図る。	○SSRの効果的な 運用 ○家庭やSC、SSW等を含めたチーム支援の充実	不登校生徒の中で ・誰とも繋がれない生徒数 ・改善傾向にある生徒割合	0人 60%以上	0人 —	0人 58%	100% 97%	3	・生徒の状況に応じて、担任、他の教員、SSR担当、SC、SSWが多面的に関わっている。 ・改善や成長に向けて、一朝一夕にはならず、粘り強く関わりを続けていく。	B	・人数の多さは気になるが、評価計画としてはよくできている。 ・家庭の責任が大。学校側には限度がある。	・未然防止の観点から、学校生活を送る上での安心できる生活環境づくりを進める。
			部活動を通して人間関係の構築を図り、自己肯定感を高める。	○主体的な部活動の運営 ○かわりきり積極的な評価	・生徒意識調査「部活動における自己肯定感」の肯定的評価の割合	85%以上	94%	94%	111%	4	・中学校生活における部活動の意義は大きく、学力面以外の様々な面で生徒の成長に大きな活動となっている。	A	・部活の在り方が問われる中で、大きな意義があると思う。 ・地域移行の課題は、生徒のみではなく、教師の育成への問題となる。	・限られた時間の中で、部活動を通して生徒の多面的な資質の育成につなげていく指導を行う。
信頼される学校	3	情報発信、地域貢献、働き方の見直しを進める。	開かれた学校に向け、地域、家庭への積極的な情報発信・公表を図る。	○学校だよりの地域への配布及びHP更新とメール配信の充実	・本校教育の現状に対する保護者の満足度	85%以上	97%	96%	113%	4	・毎日、学校の様子をメールによって保護者へ配信し、学校での生徒の姿の理解に繋がっている。	A	・メール利用で迅速に伝達できており、今後も活用してもらいたい。	・保護者や地域から、学校での生徒の様子や学校が目指す姿を、メールを活用して発信していく。
			教職員がウェルビーイングを感じる働き方を進める。	○「ありがとう」「助けて」といえる雰囲気職場づくり	・「八本松中学校で働いてよかった」と感じる教職員	100%	100%	100%	100%	3	・教職員は多忙な日々の中、より良い関係性の中で互いにサポートしあい、安心の中で業務を遂行している。	A	・先生方に敬意を表します。 ・教職員で、うつ等で悩んでいる先生はいませんか。	・お互いの役割をサポートしあい、働きやすい職場環境となるよう整えていく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
4...目標を上回って達成 3...目標どおりに達成
2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)
A...とても適切である B...概ね適切である
C...あまり適切でない D...全く適切でない
(N...判定できない)